

栗駒山の火山活動解説資料（平成 21 年 7 月）

仙台管区气象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

活動概況

・地震や微動の発生状況（図 2～3）

栗駒山を震源とする地震活動は低調な状態が続いています。火山性微動は観測されませんでした。
なお、栗駒山の近傍では、平成 20 年 6 月 14 日に発生した「平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震」（M7.2）の余震活動が続いています。

・熱活動の状況（図 4～6、表 1～2）

14 日に現地調査を実施しました。ゼッタ沢上流やゆげ山山頂などの噴気の状態は低調な状態で、前回（2008 年 7 月 16 日）と比べて、地表面温度分布¹⁾、及び噴気温度²⁾などに特段の変化は認められませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 2) サーミスタ温度計による直接測定。サーミスタ温度計は、半導体の電気抵抗が温度変化する性質を利用して温度を測定する測器です。

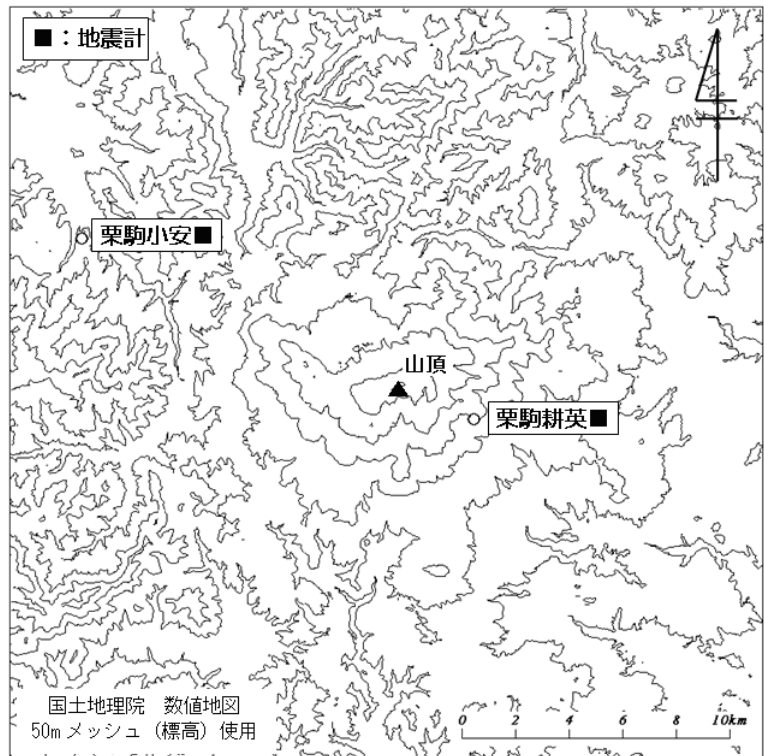


図 1 栗駒山 観測点配置図

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 21 年 8 月分）は平成 21 年 9 月 8 日に発表する予定です。

資料は、気象庁のデータの他、東北大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。

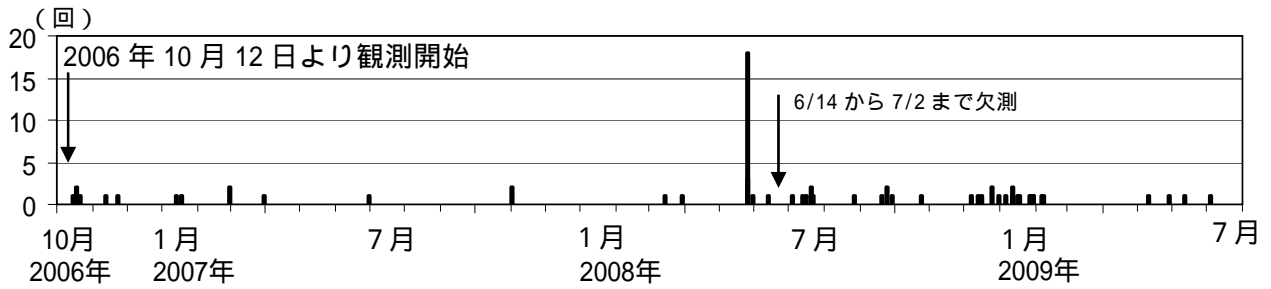


図2 栗駒山 日別地震回数（2006年10月～2009年7月）

2006年10月12日から観測開始。

栗駒山の火山監視用の「栗駒耕英（こうえい）」観測点は、2008年6月14日の「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」の影響により観測不能となっていました。12月4日に復旧しました。7月2日18時から山頂の北西約10kmに設置した「栗駒小安（おやす）」と合わせて監視を行っています（図1）。

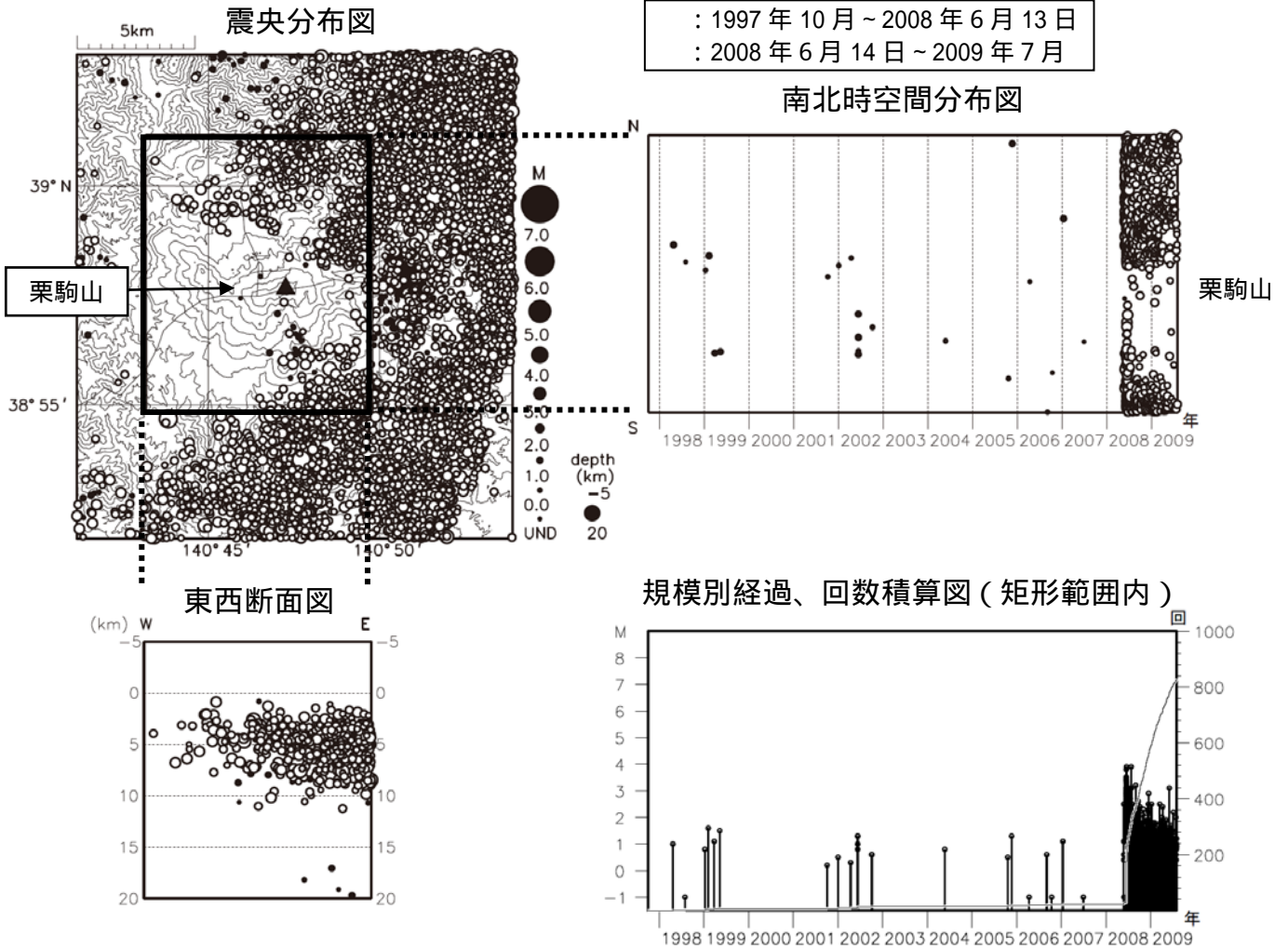


図3 栗駒山周辺の地震活動（1997年10月～2009年7月）

注）2001年10月以降、検知能力が向上しています。

M（マグニチュード）は地震の規模を示します。

図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがあります。

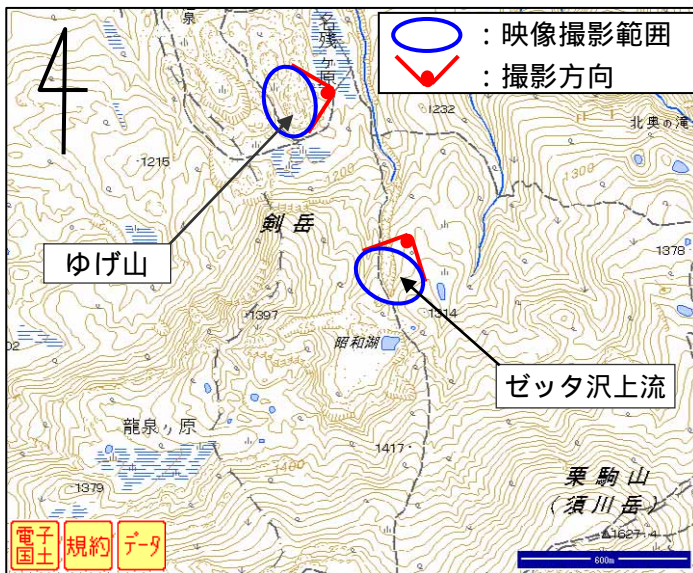


図 4 栗駒山 地表面温度分布¹⁾測定地点

表 1 栗駒山 ゼッタ沢上流の噴気観測結果

観測日	天気	気温	噴気温度 ²⁾	噴気の高さ
2006年10月25日	晴	8	95	10m
2007年7月25日	薄曇	23	94	10m
2008年7月16日	曇	20	91	10m
2009年7月14日	薄曇	18	87	3 m

表 2 栗駒山 ゆげ山山頂の噴気観測結果

観測日	天気	気温	噴気温度 ²⁾	噴気の高さ
2008年7月17日	曇	22	76	10m
2009年7月14日	薄曇	24	65	3 m

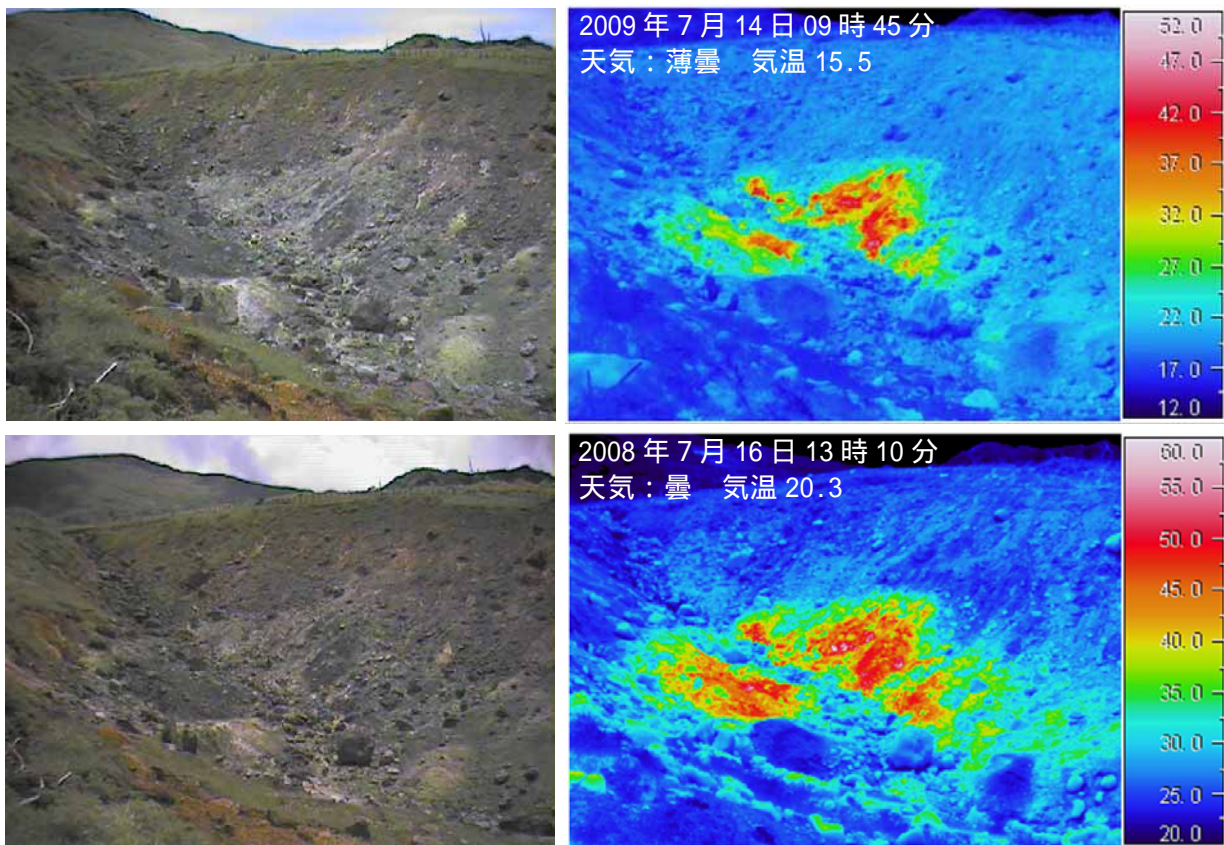


図 5 栗駒山 ゼッタ沢上流の可視画像（左）と地表面温度分布¹⁾（右）

上段：今回（2009年7月14日）、下段：前回（2008年7月16日）

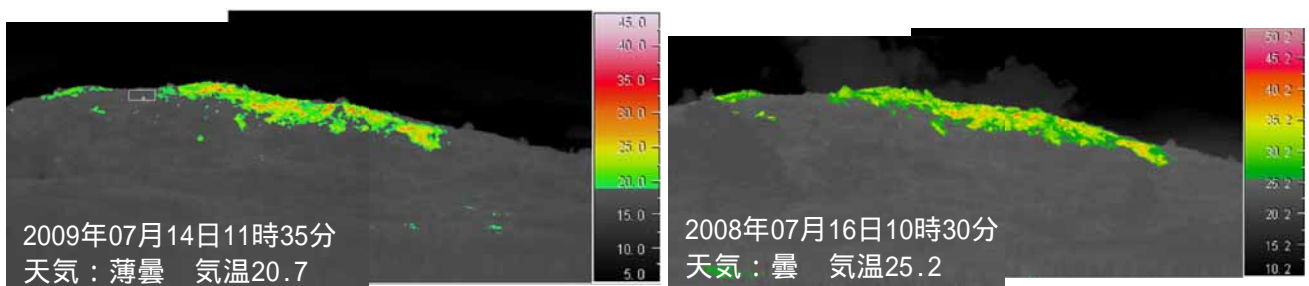


図 6 栗駒山 ゆげ山の地表面温度分布¹⁾

左：今回 2009 年 7 月 14 日撮影、右：前回 2008 年 7 月 16 日撮影